



矢作川流域圏懇談会

第14期 全体会議



2024年11月26日（火）

全体会議の次第

1. 開 会

2. 全体会議座長 あいさつ

3. 矢作川流域圏懇談会とは（設立要旨・規約・情報公開）

4. 各部会の第14期の活動目標と実績

- （1）市民部会 ・ 地域部会
- （2）各座長からの補足
- （3）意見交換

5. 第15期の全体会議の活動目標

- （1）市民部会 ・ 地域部会
- （2）各座長からの補足
- （3）意見交換

6. その他

- （1）諸連絡

7. 全体会議座長 講評

8. 閉 会

会議に参加される皆さまへお願い

下記の事項に留意してご参加ください

①本会議は対面・WEBハイブリッド会議です

- ・ 会議の開始・終了時刻を守りましょう。
- ・ 意見交換のタイミング以外は、事務局、各座長のみの発言に限ります。

②意見交換時

- ・ 対面参加の方は、挙手をお願いします。
- ・ WEB会議システムには、「挙手（手を上げる）」機能が搭載されています。意見のある方は、挙手ボタンを押してください。事務局もしくは座長が指名するまで、発言は控えるようお願いします。
- ・ 多くの参加者が発言できるよう、発言時間は長くないようにしましょう。
- ・ お互いの意見をよく聞き、それぞれの発言を尊重しましょう。
- ・ 「チャット」機能を活用し建設的な議論を行いましょう。ただし、私語や談論は慎んでください。

※マナーを守って参加してください。

遵守出来ない場合は退出していただくことがあります

3. 矢作川流域圏懇談会とは

資料1 「矢作川流域圏懇談会」について をご参照ください

①懇談会設立の背景

- ・矢作川水系河川整備計画（治水・利水・環境・土砂管理・維持管理・・・）の中に、民・学・官の連携・協働による取り組みが明記された。
- ・懇談会を設立することで、流域内の各組織のネットワーク化、河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る。

②設立要旨・規約

- ・平成22年8月28日制定→平成30年4月1日改定のもの

③矢作川流域圏懇談会の情報公開

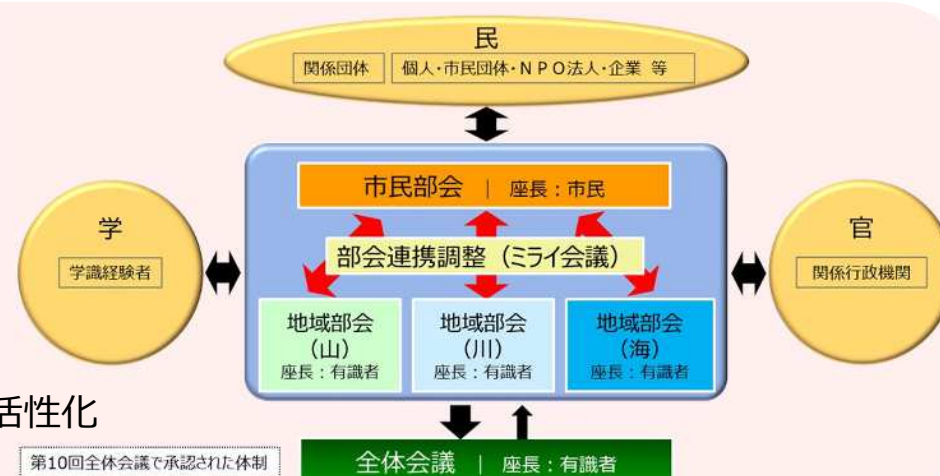
- ・原則として「公開」（個人のプライバシーに関する議事は「非公開」）

矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

129組織 406名が登録 (R6.11時点)

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



3. 矢作川流域圏懇談会とは

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

(1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体の勉強会やイベントの計画を行う。

(2) 流域の課題解決に向けて具体的な行動を積極的に行う

- 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流を実施する。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

(3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

3. 矢作川流域圏懇談会とは

【今期からの変更点】

期による整理

例年は年度末に実施する全体会議を区切りとして年度ごとの目標を設定していた。

今期より11月に全体会議を実施するため**12月1日～翌年11月30日を1つの期として整理する**。今年は設立から 15 年目となるが昨年（14 年目）は中間報告会としていたため、第 14 期として整理する。

第 13 期：令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日（昨期）

第 14 期：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 11 月 30 日（今期）

第 15 期：令和 6 年 12 月 1 日～令和 7 年 11 月 30 日（来期）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年 (令和4年)				第13期								
	全体会議											
2023年 (令和5年)												
	全体会議											中間報告会
2024年 (令和6年)				第14期								
	全体会議											
2025年 (令和7年)				第15期								
	全体会議											

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) 当初目標

【第14期の活動目標】

市民部会と地域部会（山・川・海）の取り組み

部会	令和5年の当初目標
市民	① 流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。 ② 地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。 ③ 農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。
山	① 次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。
川	① 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。
海	① 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

- ①流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。
- ②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。
- ③農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。

今後の市民部会の課題・役割

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに増えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指し、平成30年度のWGで作成しました。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

公開講座の実施（テーマ① 公開講座）

○公開講座について

流域全体に関わる課題（テーマ）について、これまでの実施状況を下記に示す。

	時期	テーマ	実施状況
これまで	令和3年7月	マイクロプラスチック	市民部会企画で公開講座を開催 「プラスチックが生き物を苦しめている」
	令和3年11月	ネオニコチノイド系農薬	市民部会企画で公開講座を開催 「アカトンボが危ない！」
	令和4年8月	「三河湾の水産資源」「栄養循環・物質循環」	市民部会提案→海部会企画で公開講座を開催 「豊かな海の栄養源～きれいな海は豊かな海か？～」
	令和5年1月	「47災害から50年」	市民部会提案→山部会企画で情報共有を実施
今期	令和6年2月	流域のつながり	市民部会企画で公開講座を開催 「川がつなぐ 私たちの未来 ～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」

令和6年2月に「**流域**」の概念を市民に伝えることが市民部会の開催する公開講座の役割として重要であるという議論から、俯瞰的に捉えた流域の解説を公開講座で行った。内容を下記に示す。

「川がつなぐ 私たちの未来 ～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」

I. 基調講演 I 富山理論から「健全な流域圏」を考える

（講師：松沢孝晋氏）

II. 基調講演 II 「流域思考」をわかりやすくつたえていくために

（講師：神田浩史氏）

III. ディスカッション（誰でも参加可能な車座形式での議論の場を用意）

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

地域部会合同でのバスツアー (テーマ② バスツアー)

○バスツアーについて

地域部会間の共通認識の隔たりを補完することを目的として、他部会に紹介したい矢作川流域の団体や場所を巡るバスツアーを開催した。

令和5年 9月13,14日の2日間で延べ32人が参加した。

アンケートの回答者全員が「所属外の部会で中心命題としている矢作川流域の課題を『知ることができた』もしくは『少し知ることができた』」と回答した。

【アンケートの内容を一部紹介】

- 山、川、海それぞれに課題があり、**全体の協力が必要**だと感じた。
- 他部会員との議論が良かった。
- バス移動中の各座長から解説や見解、現地での質疑応答は課題を知る・考える糸口となった。
- ツアーで感じたこと、考えたことについて、意見交換の場が欲しい。



バスツアー訪問先位置図



東幡豆海岸にて

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

新たなつながりを広げる (テーマ③ 新たなつながり)

○今期参加したイベント

矢作川流域圏懇談会として今期は下記イベントに参加した。例年から参加している矢作川感謝祭、“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ、中部のいい川ワークショップ、三河湾大感謝祭に加えて、今期は多摩川流域セミナーに参加した。

イベント	日 時	場 所
2023年矢作川感謝祭	令和5年9月10日（日）	千石公園（豊田大橋下）
第15回“いい川”・“いい川づくり” ワークショップ in東北	令和5年9月29日（金） 令和5年9月30日（土） 令和5年10月1日（日）	エクスカーション：四ツ谷用水 （仙台市 広瀬川） 公開選考会：東北大学 青葉山キャンパス
第10回三河湾大感謝祭	令和5年10月14日（土）	LaLaGran（三河田原駅前）
第2回中部のいい川ワークショップ in矢作川流域圏	令和6年1月20日（土）	愛知県豊田市 豊田市能楽堂
2024年矢作川感謝祭	令和6年9月22日（日）	豊田市博物館
第16回“いい川”・“いい川づくり” ワークショップ in白山手取川	令和6年9月27日（金） 令和6年9月28日（土） 令和6年9月29日（日）	エクスカーション：犀川・浅野川 公開選考会：金城大学 笠間キャンパス
第11回三河湾大感謝祭	令和6年10月6日（日）	西浦パームビーチ
第61回多摩川流域セミナー	令和6年11月30日（土）	大師河原干潟館（川崎市、多摩川河口部）

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

新たなつながりを広げる (テーマ③ 新たなつながり)

○ 2024矢作川感謝祭・第11回三河湾大感謝祭

2024矢作川感謝祭では**矢作川流域で採れた海苔、塩、お米を使用したおにぎり**を販売した。ほかにも多数の団体（山里カフェMui、坂井海苔店、山善糟屋海苔店、ワイマーケット、吉良屋、ペアツリーファーム、フードフォーチルドレン、東幡豆漁協）と協力し、矢作川流域の恵みを感じていただき、矢作川流域圏懇談会の活動を紹介した。

当日の様子は矢作新報に掲載された。

第11回三河湾大感謝祭では矢作川流域の恵みで採れた**海苔の食べ比べ**を行った。市民の方にも理解しやすい**「食」をきっかけに矢作川流域圏懇談会に興味をもていただいた。**

各イベントで「はぎぼう」に関するグッズ（うちわ、メモ帳、ストラップ）を作成し、子供から大人まで多くの方に「はぎぼう」や矢作川流域圏懇談会を知っていただいた。



2024矢作川感謝祭の様子



2024矢作川感謝祭の記事（矢作新報）



第11回三河湾大感謝祭の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

新たなつながりを広げる (テーマ③ 新たなつながり)

○新たなつながり

- オーガニック給食の推進に関する取り組みを実施している**Food for Children愛知**

Food for Children安城の関係者に取材するとともに、WGで情報共有を図った。

- バスツアーには、**大学生**2名（愛知工業大学、三重大学）が参加した。

- 様々な団体の方と協働で矢作川感謝祭に出店した。

- **多摩川流域懇談会と合同セミナー**を開催し、互いの流域に関して理解を深める予定である。

(11月30日開催予定)



2023 矢作川感謝祭の様子



第16回 いい川づくりWS
エクスカージョンの様子



第16回 いい川づくりWS
公開選考会の様子



第10回 三河湾大感謝祭の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【今期の活動①】

第14期の市民部会の活動を下記以降に示す。

活動		日時	場所・内容
第14期	第15回WG	令和5年5月22日（月）	場所：豊田商工会議所 206会議室 内容：今年度の市民部会の方針 今後のイベントの方針
	第16回WG	令和5年7月11日（火）	場所：豊田市崇化館交流館 大会議室 内容：公開講座の開催計画 バスツアーの開催案内 イベントでの流域懇談会のPRについて
	第17回WG	令和5年9月8日（金）	場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室 内容：公開講座のために「富山理論」についての話し合い バスツアーの最終確認 農業に関するイベントの紹介
	2023 矢作川感謝祭	令和5年9月10日（日）	場所：豊田市千石公園（豊田大橋下） 内容：矢作川に関する意見募集 矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	矢作川バスツアー	令和5年9月13日（水） ～14日（木）	場所：矢作流域内各所 内容：山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー 流域連携を進めるために山・川・海の各部会が持つ課題や問題点の共有

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【今期の活動②】

	活動	日時	場所・内容
第14期	第15回 いい川・いい川づくり ワークショップ	令和5年9月29日（金） ～10月1日（日）	場所：東北大学（青葉山キャンパス） 内容：四ツ谷用水、貞山運河のエクスカージョン 矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	第10回 三河湾大感謝祭	令和5年10月14日（土）	場所：LaLaGran（三河田原駅前） 内容：動く木のおもちゃの展示 矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	第5回市民部会 まとめの会	令和6年1月10日（水）	場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室 内容：第14期の活動実績と次回全体会議に 向けた活動計画 公開講座に向けた状況報告、チラシ配布 バスツアーの報告
	第2回中部のいい川 づくりWS	令和6年1月20（土）	場所：愛知県豊田市 豊田市能楽堂 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	第4回公開講座	令和6年2月12日（月）	場所：豊田市産業文化センター 多目的ホール 内容：「川がつなぐ私たちの未来 知らなかった 山・川・里・海のつながり」 流域のつながりの再認識

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

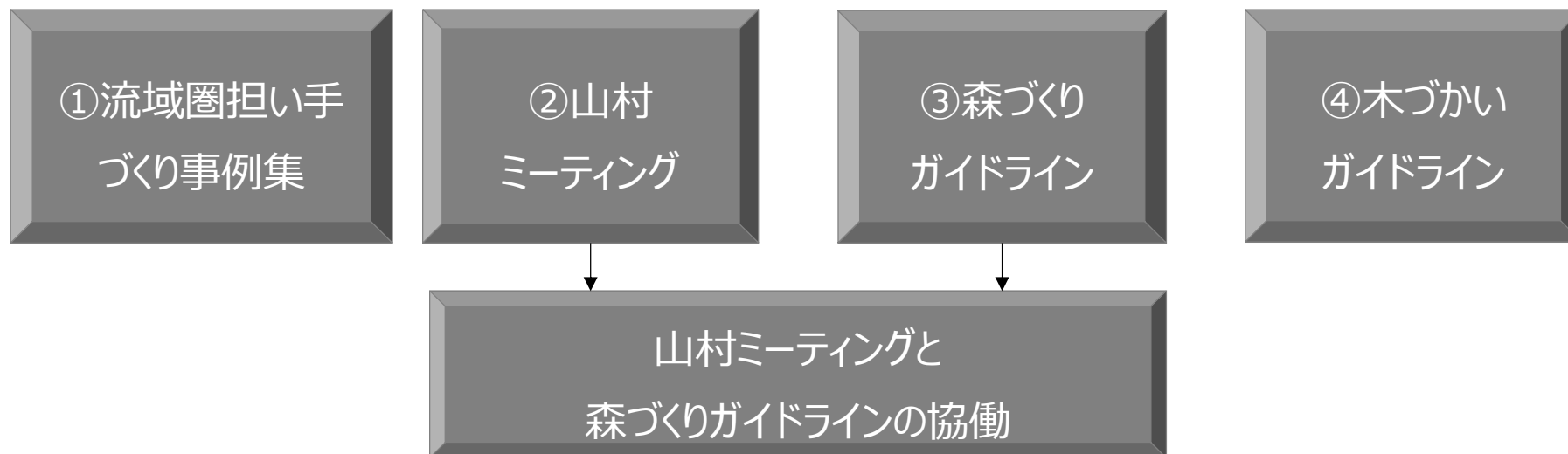
【今期の活動③】

	活動	日時	場所・内容
第14期	第18回WG	令和6年5月20日（月）	場所：豊田市職員会館2階 第1会議室 内容：座長交代に伴うご挨拶 昨期の活動成果と今期の活動計画
	第19回WG	令和6年8月30日（金）	場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室 内容：流域連携イベントに向けた意見交換 食と農業に関する意見交換
	2024 矢作川感謝祭	令和6年9月22日（日）	場所：豊田市博物館 内容：矢作川の恵みで作った食品の販売 矢作川流域圏懇談会の活動紹介 はぎぼうグッズの配布
	第16回 いい川・いい川づくり ワークショップ	令和6年9月27日（金） ～29日（日）	場所：金城大学 笠間キャンパス 内容：犀川・浅野川のエクスカーショ 矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	第11回 三河湾大感謝祭	令和6年10月6日（日）	場所：西浦温泉パームビーチ 内容：三河湾の海苔の食べ比べ 矢作川流域圏懇談会の活動紹介 はぎぼうグッズの配布
	第6回市民部会 まとめの会	令和6年10月29日（火）	場所：豊田市崇化館交流館 第2会議室 内容：今期の振り返りと来期の目標

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。



<テーマ>

<活動目標>

①流域圏担い手
づくり事例集

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅴ」を刊行する。
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった幸田町の団体への取材の可能性を検討する。
- 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- 事例集交流会を開催する。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

<テーマ>

<活動目標>

②山村ミーティング

- 山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- 矢作川感謝祭が林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。

山村ミーティング と森づくりガイドライン の協働

- 流域での森林ボランティアを始め多様な森づくりに関わる人々の活動を総括し、流域圏懇談会山部会の働きかけで実現した矢作川流域現場森林技能者合同交流研修会の内容を取りまとめた冊子「森の人をつなぐ」（第14期活動成果）を流域森林組合や森づくりに関わる団体・個人に配布し、プロもアマも連帯した流域の森づくり運動の実現を目指す。（森づくりガイドライン協働）
- 流域外の森林組合や森林事業、森づくり関係団体や個人へも「森の人をつなぐ」を配布することにより、矢作川流域圏懇談会山部会の取り組みを発信する。（森づくりガイドライン協働）

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

＜テーマ＞

④木づかいガイドライン

＜活動目標＞

- 矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- 矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- 「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて送信する。
- 「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン（木育キャラバン）」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。
- 神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。
- 学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ①流域圏担い手づくり事例集)

○流域圏担い手づくり事例集交流会2024の実施

第14期は海に流域の問題が集約されるとの思いから、初めて**伊勢湾・三河湾の豊かさをテーマ**とした「流域圏担い手づくり事例集」を刊行し、第54回海部会WGを兼ねて**事例集交流会を開催**した。会場の鳥羽市立海の博物館には今まで最多の41名が集まった。多様な取材対象者と寄稿者、関連する活動団体の報告、その後に意見交換を行った。

事例集交流会は2日間に分けて開催され、初日に事例集交流会、翌日に答志島内のエクスカーションを実施した。以下に事例集交流会で登壇していただいた方の意見を示す。



青木伸一さん (大阪大学名誉教授・海部会座長) ・海の問題解決のために流域圏での連携を!・

1960年代ごろから問題になっている内湾域の水質悪化や水産資源の劣化は多くの努力をしてきたがあまり改善されていない。それは、環境問題のスケールが管理者のスケール(河川、海岸、漁場など)を超えていることにある。海に関係する人々だけでは決して解決できない。



平賀大蔵さん (海の博物館 館長) ・海の恵みと変化について・

海の博物館は、漁師、海女、船乗り、そして海辺に住む人々が海と親しく付き合ってきた歴史と現在、未来を伝える「海と人間」の博物館である。水産資源の減少等を記録し、公開することが重要と考えている。なぜ水産業の為に水が無いのか問いかけていきたい。



4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ①流域圏担い手づくり事例集)

蔵治光一郎さん (東京大学大学院教授・山部会座長)
・伊勢湾・三河湾と流域の森林・

流木はかつてとても貴重な資源とされていたが、燃料革命によって価値のないゴミ同然のものとなった。流木を減らすための手段を考えるため、まず山・川・海の関係者が対話し、信頼関係を築くことが必要となる。



小田和人さん (海女の森プロジェクト)
・森と海を繋ぐことー海女の森プロジェクトー・

山に木が生えている方が自然豊かと思われてきたが、現在は大きくなり過ぎ、蒸散量が増えている状態である。適切な森林伐採を進めることで集中豪雨を減らし、森と海の豊かさにつながる。



岡田誠さん (三重県水産研究所)
・伊勢湾の貧酸素水塊の問題について・

貧酸素水塊の原因は成層の強化や水の動きが弱まることで海底に酸素が供給されないことが原因だと判明してきた。今後着目すべきは漁業対象種に限らず、出現種や生物多様性の変化だと考える。



米田紗歩さん、筒井千遥さん (22世紀奈佐の浜プロジェクト)
・22世紀奈佐の浜プロジェクトについて・

鳥羽市答志島での海岸漂着ごみが問題となっている中、ごみを出さない社会を構築し、豊かな海を取り戻すことを目的に2012年に設立された。流域内外の活動を通じて山から海まで新たな担い手たちとの繋がりを生み出すことを目指す。



中村欣一郎さん (鳥羽市長)
・鳥羽市で取り組む海ゴミ問題について・

鳥羽市では様々な海ゴミ問題に取り組んでいる。22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽のSDGsまなブック、海のシリコンバレー構想、海のレッドデータブック等の海ごみ・海岸清掃からも鳥羽の魅力を伝えている。



奈佐の浜海岸



奈佐の浜海岸
近くの湿地帯



海女小屋

○答志島エクスカージョンの実施

翌日は、奈佐の浜海岸のごみの状況や奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷についての説明を聞き、その後に海女小屋で新鮮な魚などを食べながら海女さんから貴重なお話を聞いた。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

山村ミーティング・森づくりガイドラインの協働 (テーマ②山村ミーティング、テーマ③森づくりガイドライン)

○「森の人をつなぐ」を刊行

2023年7月20日に流域3県4森林組合（根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合）の**現場森林技能者が集まり「第1回矢作川流域現場森林技能者合同交流研修会」を実施した。**

この内容を広く知っていただくこと、流域あるいは豊田の林業者の取り組みを正しく理解していただくことを目的に**「森の人をつなぐ」**にとりまとめ、配布した。

この冊子を活用して情報発信を随時行っている。



○夕立山森林塾と合同WGを実施

「山林を見届ける～素人零細山主の終活トリセツ～」

丹羽氏は2024年6月に先代から継いだ**小さな山林を皆伐**した。それまでの葛藤や決断、手続き、費用等を公開し、同じような葛藤を持つ山主の方に情報を発信した。山主、林業者の幸せを様々な立場（山主、事業者、行政、ボランティア、学生、研究者等）の方々と意見交換を行った。総勢45名の方が参加した。

これらの内容を踏まえて所有山林に対して、山主自身や山の継承者、地域にとって良い選択をサポートできるような**「山を見届けるマニュアル」**を作成していくことを第71回山部会WGで報告した。



合同WGの様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

森づくりガイドライン (テーマ③森づくりガイドライン)

○新たな水循環施策の方向性について

水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備の新たな施策の方向性について、これまで進めてきた「流域治水」から、流域単位での水力発電の増強や上下水道施設の再編等による、省エネ化を推進し、流域で治水とカーボンニュートラルに向けて全国109ある全ての一級水系で「**流域総合水管理**」に取り組み、流域水循環計画に反映されていく情報を共有した。

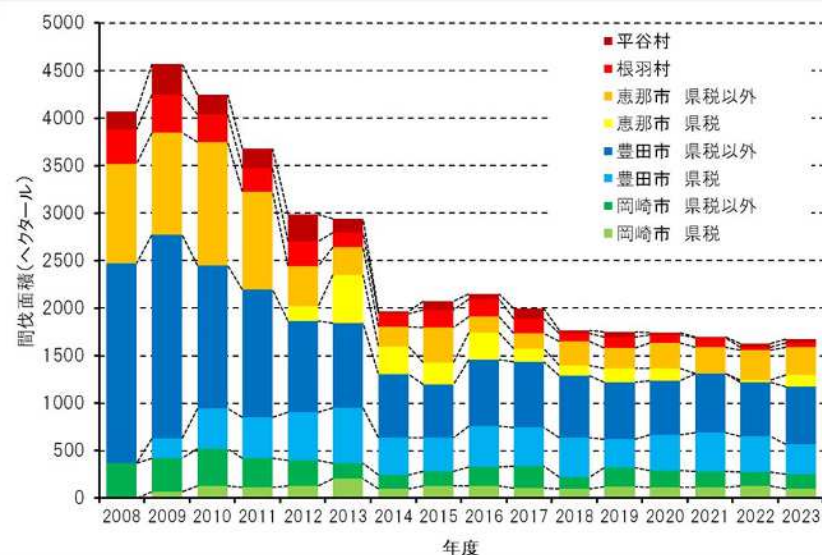
○令和6年度 第1回とよた森づくり委員会の情報共有

森林区分を4種類（木材生産林、針広混交誘導林、利用天然林、保全天然林）から2種類（人工林、天然林）に集約する提案があった。その中で、人工林は公益的機能の高い状態が、手入れ無しで維持される人工林として定義されている。

○矢作川流域圏での人工林間伐の状況

2009年から2014年の間に大きく減少しており、それ以降は2000ha前後で横ばい傾向である。

2023年は傾向、間伐面積ともに前年と比較して大きな変化はない。



4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

木づかいガイドライン (テーマ④木づかいガイドライン)

○根羽村森林組合の活用事例紹介

木の糸プロジェクト、生分解性オイル、Jクレジット制度の取り組み、企業との連携による森づくり（more treesの森、シチズンの森）等を紹介していただいた。

○根羽村・林業のミライ合宿の報告

22世紀奈佐の浜プロジェクトが主催する根羽村での移住と林業の体験活動を実施した。当初は学生が10名以上参加する予定であったものの、台風10号の影響もあり、3名の参加となった。
「地域材を使う意味を考える」、「根羽村で遊ぶことを通して根羽村を知る」というテーマを基にフィールドワークを交えて活動したことを情報共有した。

○各自治体における木材の利用の促進に関する方針

今期から新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較した。

矢作川流域は3県をまたぐ流域であるため県産材の枠組みを超えた「流域産材」の利用を呼び掛けていきたい。県産材と記載する自治体は多数あるが流域を意識した表現がされている自治体が少ない結果となった。

対象市町村：みよし市、安城市、岡崎市、刈谷市、恵那市、新城市、瑞浪市、西尾市、設楽町
知立市、半田市、武豊町、碧南市、豊田市、幸田町、平谷村、根羽村、高浜市
（高浜市、幸田町、根羽村、平谷村は非公開）

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク (2023年5月 豊田市小原地区 地域活性化の取り組み視察)

豊田市小原地区で進められている、地域ブランディング活動「三河里旅（みかわさとたび）」の活動フィールドを見学しました。上流域に下流域の人々を呼び込む活動は、“流域を繋ぐ”という矢作川流域圏の取り組みの上でも重要となります。

○ 三河里旅の活動紹介

現地見学の前に、会議室で三河里旅についてご説明いただきました。三河里旅は旧小原村を拠点とし、地元の方に案内いただく三河の里山のディープなローカルツアーを紹介しています。



屋内での公演風景



山城解説の様子



城壁と地形の解説の様子

○ ローカルツアー体験「知ると楽しい 山城を知ろうツアー！」

様々なツアーのうち、小原地区の山城をめぐるツアーをご案内していただきました。小原地区にある市場城をふもとから歩いて登り、「攻め込んでくる敵を一網打尽にするための切り立った通路」など、戦の時に重要な場所などのレクチャーをしていただきました。

○ 地域の情報発信「おぼらのじかん」

小原地区では、小原地区での暮らしの魅力や特徴をお伝えすること等を目的に、通信誌「おぼらのじかん」が発行されています。小原地区に興味を持つ地域外の方との繋がりを作るほか、小原地区を出られた方とも繋がり続ける“ツール”となっているようです。



4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2023年7月 根羽村 森林の活用、村民活動拠点の視察）

根羽村で、森林活用の状態（Jクレジットの活用を行っている森林、コウヨウザンの植栽箇所）と、様々な交流活動（山村留学で作成したウッドデッキ、新たにオープンした村民活動拠点施設）を見学させていただきました。

○ Jクレジット対象林の視察

温室効果ガスの吸収量をクレジット化して販売している森林を見学しました。対象森林は7haで、33.25トンのCO2を吸収しています。山を手放したい人も多い中、材を出す以外の収入源となるため、村民にもメリットがあるようです。



Jクレジット対象林の視察風景



里山展望デッキ



くりや

○ 里山展望デッキ、村民活動拠点「くりや」

山村留学のご家族と根羽村森林組合が共働で作成したウッドデッキを見学しました。参加された方からは、自然の中で五感を使って体験する場が大切だという気づきがあった、と伺いました。

村民交流拠点「くりや」(2021年オープン)を見学しました。テレワーク設備、シェアキッチンなどが設備され、交流や活動拠点として機能しています。

○ コウヨウザン植栽地の視察

2年前に皆伐し、早生樹であるコウヨウザンを植栽した箇所を見学しました。獣害が大きな課題となっており、再生林が非常に難しい状況です。単木防護柵による獣害対策ではすべてシカに食害されたため、カプサイシンの散布、周囲防護柵の設置、植栽地パトロールなど各種対策の実施を検討しています。



コウヨウザン植栽箇所の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2023年9月 恵那市 養蜂場の見学）

恵那市に移住され、養蜂農家をされている上矢作養蜂場の加地様に移住された経緯や地域交流の手段としての二ホンミツバチの養蜂についてお伺いさせていただきました。

○ 移住についてのお話し

加地様が実際に移住をされた経緯と、地域に溶け込むまでのお話を、地元の方々とリフォームされた「あんきな家」でうかがいました。

当初、地元の方から遠目で見られている気配があったが、地元の活動にも積極的に参加するなど親交を深め、養蜂を通じて地域に溶け込んだそうです。



あんきな家の様子



二ホンミツバチの巣箱



二ホンミツバチの様子

○ 養蜂（二ホンミツバチ）の様子

加地様が管理されているミツバチの巣箱を見学させていただきました。庭先に4つの巣箱を設置されており、見学した際も巣箱周辺はミツバチが飛び交っていました。

二ホンミツバチの蜜は“百花蜜”といわれ、ひと瓶数千円の値段が付くこともあり、地域の特産品になる可能性があります。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2024年2月 岡崎市 小森胤樹氏の講演聴講）

フォレストーズ合同会社を設立し、市町村の林野行政や森林施業の支援等で活動されている小森胤樹氏を講師にお招きし、林野行政の状況、これからの森林管理の課題等について講演していただきました。

質疑応答では、矢作川流域の森林管理や森林が持つ課題等について意見交換を行いました。

○ 主な講演内容

■ 日本人の森林活用の歴史

縄文時代は自然の再生能力の範囲内で暮らせていた。飛鳥時代以降に多くの樹木が活用された結果、日本の森林は「はげ山」が広がっていたと思われる。1960年代に始まった燃料革命と肥料革命により樹木の活用が少なくなり、山の資源が回復してきた。この森林の変遷がわかった上で山をみななければいけないと思う。

■ 林野行政20年の変遷の理解

1998年森林・林業基本法ができたことで林野行政に大きな変化があった。森林の持つ多面的機能、公益的機能が重視される。2009年森林・林業再生プランにより、フォレスター（森林総合監理士）が配置され、集約化・搬出間伐の方針が提示された。2012年森林経営計画により、森林施業計画による森林経営の方針が提示された。

■ 脱炭素と森林

森林環境譲与税などの林業の補助金は、脱炭素と結びついている。CO₂の森林吸収量の目標を達成するため、間伐を進めている。CO₂吸収のため国は皆伐再造林を推進している。林齢の平準化は森林育成の上で適切なものか。世界は恒続林の育成に進んでいる。

■ 森林経営管理制度

間伐面積を増やすためには集約化が必要で、それを進めるための法制度が森林経営管理制度である。森林経営管理制度、森林環境譲与税と連動させて回していける体制が重要と考えている。



講演の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2024年6月 豊田市旭地区 さくら村ツリーハウス視察）

豊田市旭地区の東萩平町で行われている「ガキ大将養成講座」の拠点であるさくら村において、完成したツリーハウスを見学しました。さくら村のシンボルである山桜に巻き付くような形で作られており、特別な設計がされていることを説明していただきました。

○ さくら村ツリーハウス視察

ツリーハウスに使用している材木は基本的に全てさくら村で伐採した木を使用しています。

さくら村の会員になった子ども達は、親が口出ししてしまいそうなことも全てやらせ、自分の身は自分で守るということを学ばせる。さらに学んだ子どもが今度は先生となり、また子どもに教えることで繋いでいくと説明されました。

月2回の作業日を中心に、子ども達や大学生が力を合わせて、およそ9年かけてツリーハウスの完成に至りました。ツリーハウスに限らず、子ども達自らで作成した遊具や展望ウッドデッキもご紹介いただきました。



ツリーハウス



フィールドワークの様子

○ 森づくりシンポジウム「豪雨からはじまった市民の森づくり」聴講

「豪雨からはじまった市民の森づくり」と題して、近年の豪雨災害と森林の関係や豊田市の森づくりについて、蔵治光一郎氏と小山剛氏に講演していただきました。また、鈴木公平氏、丹羽健司氏、山本薫久氏、洲崎燈子氏を加えた、パネルディスカッションにより、矢作川水系森林ボランティア協議会の発足までの歴史等、当事者たちからしか聞けない当時の話を伺うことができました。



パネルディスカッションの様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2024年7月 恵那市 山林現場の見学、WGディスカッション）

タ立山森林塾と共催で丹羽氏所有の皆伐した山林現場を見学し、午後にはWGディスカッションを行いました。

○ 山林現場の見学

丹羽氏は2024年6月に先代から継いだ小さな山林を佐藤林業で皆伐しました。現場は急傾斜地で崩落跡もあるような現場でした。山林現場の状況や伐採していない近隣の山林現場の状況を確認しながら佐藤氏と丹羽氏に説明していただきました。



実際に皆伐した山林現場



山林現場を見学する様子



伐採していない周辺の山林

○ WGディスカッション

「山林を見届ける～素人零細山主の終活トリセツ～」

実際に間伐した山林現場を見学した後に、WGディスカッションを実施しました。丹羽氏のそれまでの葛藤や決断、手続き、費用等を公開していただき、同じような葛藤を持つ山主の方に情報を発信しました。山主、林業者の幸せを様々な立場（山主、事業者、行政、ボランティア、学生、研究者等）の方々と意見交換しました。総勢45名の方が参加しました。



WGディスカッションの様子



意見交換の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク (2024年9月 根羽村 ^{やまちらくのう}山地酪農、安城市植樹エリアの視察)

日本では10軒ほどしかない山地酪農をされている幸山明良さんにお話を伺いました。山地酪農をきっかけに多様な生物・植物が生息するようになったことを説明していただきました。

また、安城市が毎年植樹しているエリアを視察し、植樹状況を確認しました。

○ 山地酪農ハッピーマウンテンの見学

2017年から根羽村で山地酪農をされている幸山明良さんにお話を伺いました。

山地酪農とは山に生える自然な植生を野芝に変え、家畜を飼育する農法です。牛たちが食べ、排泄したものが土に還りまた草が生えるサステナブルな考え方です。

ハッピーマウンテンでは乳製品を作らずに山地酪農をきっかけに生息するようになった多様な植物や生物をガイドする「ネイチャーガイド」、牛・鶏と直接触れ合う「カウカドリング」を中心に活動されています。



カウカドリングの様子



フィールドワークの様子

○ 安城市植樹エリアの視察

平成29年から毎年安城市が植樹しているエリアを視察しました。

ヤマツツジ、ミツバツツジを中心に植樹されていました。生存能力の高い樹木によってツツジの生育状況が妨げられていることを確認しました。

また、153号線からツツジが見えるように植樹することで車が通った際にも注目されるのではないかとのお話もありました。



植樹エリア視察の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【今期の活動①】

第14期の山部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	内容・場所
第14期	第66回WG・FW	令和5年 5月19日（金） ～20日（土）	WG 内容：第14期の活動計画、テーマ別の活動報告、事例集交流会 場所：豊田市 つくらッセル体育館 FW ・三河里旅（町おこしについて、市場城跡ツアー体験）
	第67回WG・FW	令和5年 7月28日（金） ～29日（土）	WG 内容：テーマ別の活動報告、国際森林認証制度について 場所：根羽村 老人福祉センターしゃくなげ FW ・jクレジット対象林、里山展望デッキ、村民活動拠点くりや、コウヨウザン植栽地
	第15回山部会 まとめの会・FW	令和5年 9月15日（金） ～16日（土）	まとめの会 内容：テーマ別の活動報告、恵那市の森づくりの状況、安藤林業の取り組み 場所：上矢作町 上矢作コミュニティセンター FW ・あんきな家（地域おこしについて、養蜂の現場見学）
	第68回WG・FW	令和6年 2月2日（金） ～3日（土）	WG 内容：テーマ別の活動報告、第14期の活動実績と次回全体会議に向けた計画 場所：岡崎市 農村環境改善センター FW ・小森胤樹氏（フォレストーズ合同会社）の講演

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【今期の活動②】

	活動	日時	内容・場所
第14期	第69回WG・FW	令和6年 5月31日（金） ～6月1日（土）	WG 内容：第14期の活動計画、テーマ別の活動報告 場所：豊田市 生涯学習センター 旭交流館 FW ・「さくら村」視察 ・森づくりシンポジウム「豪雨から始まった市民の森づくり」参加（豊田市崇化館交流館）
	第54回WG 事例集交流会	令和6年 7月6日（土） ～7日（日）	場所：鳥羽市立海の博物館、答志島 内容：流域圏担い手づくり事例集交流会2024 答志島エクスカーション
	第70回WG・FW	令和6年 7月26日（金） ～27日（土）	WG 内容：テーマ別の活動報告、 山林を見届ける～素人零細山主の就活トリセツ～ 場所：恵那市 HYAKKEI FW ・丹羽氏所有の皆伐した山林現場
	第16回山部会 まとめの会・FW	令和6年 9月6日（金） ～7日（土）	まとめの会 内容：テーマ別の活動報告、今期の振り返りと来期の目標 場所：根羽村 老人福祉センターしゃくなげ FW ・山地酪農 ハッピーマウンテン ・安城市植樹エリアの視察

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

<テーマ>

河道に関する課題
(本川・支川)

<活動目標>

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

流域に関する課題

- 川まちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有していただく。
- 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

交流に関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

テーマ別の活動目標に対する活動計画について (テーマ①河道、②流域、③交流・共有)

○テーマ別の活動目標に対し、目標達成に向けた活動計画を策定していくため、3つのテーマに関する課題、アイデア、提案等の意見を付箋紙に記し、出てきた意見についてカテゴリー分けを行った。これらのカテゴリーを踏まえ、今後の活動計画や方針、課題等について意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・治水・利水・環境のバランスについて、今まで**土砂**が一つの鍵になるというのが共通認識であったが、今後は**流域治水**に合わせて考えていくことになると思う。
- ・生きものの棲みやすい川づくりという当初からの目標は継続していくことでよいと思う。
- ・これからは流域治水ということで、**流域住民に「川をどうしていきたいか」等の視点を投げかけていく**ことも役割となってくるのかと思う。



みなさんが出したアイデア認・整理

矢作川関係卒業研究の紹介について (テーマ①河道に関する課題 (本川・支川))

○内田座長の研究室（愛知工業大学土木工学科）の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容を紹介いただき意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・矢作川では、河床の攪乱不足により様々な生物に影響がでていることがわかっている。ダム湖内での砂利採取や砂防事業などが河床の攪乱不足の要因となっていると考えられる。
- ・アユの不漁には、カワシオグサやコケ植物、オオカナダモの繁茂が関係している。そして、これらの植物に伴って、トビケラや外来生物のカワヒバリガイなどが沢山生息するようになり、より一層、河床の攪乱不足になっている。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

総合土砂管理について (テーマ①河道に関する課題 (本川・支川))

○土砂供給実験箇所・置土実験箇所の視察

第64回川部会 (令和6年6月27日) にて、矢作川水系総合土砂管理事業の土砂供給実験箇所や置土実験箇所の現地視察を行った。実験の概要や実験において着目すべき環境の現地視察後、会議室にて意見交換を行った。



越戸公園での説明の様子



越戸ダム下流 (水管橋) での説明の様子

【意見交換の内容を一部紹介】

- 昔と今では土砂採取状況やダムの有無、水質状況等が大きく異なり、問題が複合化してきている状況であるため、客観的な数値での評価が難しいのではないかと。
- 置土実験後の地形的変化や河床材料の変化、底生動物 (水生昆虫・貝類) 等の環境変化について定量的に評価する必要がある。
- 置土の限界量については、堆積過多であると河道管理上問題があると考えられるため、置土実施前のシミュレーションと現地状況の確認結果を踏まえて考える必要がある。

水力発電に関する情報共有 (テーマ①河道に関する課題 (本川・支川))

○水力発電に関する情報共有と意見交換

日本を取り巻くエネルギー資源の現状、水力発電の主な特徴、矢作川水系の水力発電等について中部電力株式会社から情報共有していただき意見交換を行った。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

流域治水について (テーマ②流域に関する課題)

○矢作川流域治水プロジェクト・協議会について情報共有・意見交換

第65回川部会（令和6年9月26日）にて、矢作川の概要や流域治水への転換、矢作川流域治水プロジェクト策定の経緯、具体的な方策等を情報共有し、意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・ 矢作川流域圏懇談会の議論内容を矢作川流域治水協議会において共有する必要がある。
- ・ 矢作川は、河口ではなく氾濫原の中心に都市があり、他流域とは異なる特性を有している。こういった特性を考慮して施策を進める必要がある。
- ・ 流域治水の事業はハード対策とソフト対策の組み合わせであることを周知する必要がある。



矢作川流域治水プロジェクトのパンフレット

○流域治水の取り組みについて情報共有・意見交換

同部会にて、岡崎市および豊田市から以下の流域治水の取り組みを紹介していただき、意見交換を行った。

- ・ 岡崎市：ワンコイン浸水センサの実証実験について
：農業用ため池の利活用について
- ・ 豊田市：3D都市モデル(PLATEAU)を活用した水害リスクの可視化



情報共有・意見交換の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

【今期の活動】

第14期の川部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	場所・内容
第14期	第62回WG	令和5年6月20日（火）	場所：豊田市 崇化館交流館 大会議室 内容：昨年度の活動成果と今後の活動目標 矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況 ヨシ植え体験会in 矢作川 参加報告
	第63回WG	令和5年8月22日（火）	場所：豊田市 崇化館交流館 大会議室 内容：昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介 市民部会発の勉強会（バスツアー）について
	第15回川部会 まとめの会	令和6年1月22日（月）	場所：西三河総合庁舎 402 会議室 内容：今年度の振り返りと次年度の目標 矢作川感謝祭参観レポート 矢作川カーボンニュートラルプロジェクト
	第64回WG・FW	令和6年6月27日（木）	WG 場所：中部電力 愛知水力センター 会議室 内容：今期前半の活動成果と今後の活動目標 水力発電に関する情報共有 FW ・越戸公園、越戸ダム下流（水管橋）の土砂供給 実験箇所・置土実験箇所の視察
	第65回WG	令和6年9月26日（木）	場所：豊田市 崇化館交流館 第4会議室 内容：矢作川流域治水プロジェクト・協議会について 流域治水の取り組み紹介
	第16回川部会 まとめの会	令和6年10月31日（木）	場所：豊田市 崇化館交流館 大会議室 内容：今期の振り返りと来期の目標

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

＜テーマ＞

＜当初目標＞

豊かな海の再生に
向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過や観察状況の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。

海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。

ごみの問題

- 三河湾だけではなく、より広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

豊川自然再生について (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み)

○干潟造成箇所・ヨシ原再生箇所の見学

第52回海部会（令和5年6月5日）にて、豊川自然再生事業の干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の現地視察を行い、自然再生事業の計画エリアについて説明があり、知見を広げるとともに会議室にて意見交換・情報共有を実施した。



豊川河口の干潟・ヨシ原の状況



豊川河口の干潟・ヨシ原の説明の様子

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・豊川河口は、伊勢・三河湾の重要な場所となっており、河口域に干潟を造成することは、稚貝の生育の場を広げるということで非常に意味がある。
- ・三河湾は栄養塩不足になっている。栄養塩管理と干潟の造成・保全をハイブリッドで進めていく必要がある。

伊勢・三河湾の貧栄養化について (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み)

○伊勢・三河湾の貧栄養化についての情報共有・意見交換

近年の伊勢・三河湾の水産資源の動向や、海の貧栄養化現象について鈴木先生からの情報提供により意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・貧栄養化の解決策として、環境基準や類型指定の見直し、広域流域処理から地域処理への転換といった負荷管理の見直し等が考えられる。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

地域連携イベントの参加 (テーマ②海と人との絆再生)

○2024矢作川感謝祭・第11回三河湾大感謝祭

2024矢作川感謝祭では、**矢作川流域で採れた海苔、塩、お米を使用したおにぎり**を販売した。ほかにも多数の団体（山里カフェMui、坂井海苔店、山善糟屋海苔店、ワイマーケット、吉良屋、ペアツリーファーム、フードフォーチルドレン、東幡豆漁協）と協力し、矢作川流域の恵みを感じていただいた。当日の様子は矢作新報に掲載された。

第11回三河湾大感謝祭では、矢作川流域の恵みで採れた**海苔の食べ比べ**を行った。

これらのイベントを通じて、次頁で紹介する流域圏担い手事例集Ⅴを配布し、市民の方にも理解しやすい**「食」をきっかけに海で起きている様々な問題について興味をもていただいた。**



2024矢作川感謝祭の様子



2024矢作川感謝祭の記事(矢作新報)



第11回三河湾大感謝祭の様子

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題)

○流域圏担い手づくり事例集交流会2024の実施

第14期は海に流域の問題が集約されるとの思いから、初めて**伊勢湾・三河湾の豊かさをテーマ**とした「流域圏担い手づくり事例集」を発行し、第54回海部会WGを兼ねて**事例集交流会を開催**した。会場の鳥羽市立海の博物館には今まで最多の41名が集まった。多様な取材対象者と寄稿者、関連する活動団体の報告、その後に意見交換を行った。

事例集交流会は2日間に分けて開催され、初日に事例集交流会、翌日に答志島内のエクスカーションを実施した。以下に事例集交流会で登壇していただいた方の意見を示す。



青木伸一さん (大阪大学名誉教授・海部会座長) ・海の問題解決のために流域圏での連携を!・

1960年代ごろから問題になっている内湾域の水質悪化や水産資源の劣化は多くの努力をしてきたがあまり改善されていない。それは、環境問題のスケールが管理者のスケール(河川、海岸、漁場など)を超えていることにある。海に関係する人々だけでは決して解決できない。



平賀大蔵さん (海の博物館 館長) ・海の恵みと変化について・

海の博物館は、漁師、海女、船乗り、そして海辺に住む人々が海と親しく付き合ってきた歴史と現在、未来を伝える「海と人間」の博物館である。水産資源の減少等を記録し、公開することが重要と考えている。なぜ水産業の為の水が無いのか問いかけていきたい。



4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題)

蔵治光一郎さん (東京大学大学院教授・山部会座長)
・伊勢湾・三河湾と流域の森林・

流木はかつてとても貴重な資源とされていたが、燃料革命によって価値のないゴミ同然のものとなった。流木を減らすための手段を考えるため、まず山・川・海の関係者が対話し、信頼関係を築くことが必要となる。



小田和人さん (海女の森プロジェクト)
・森と海を繋ぐことー海女の森プロジェクトー・

山に木が生えている方が自然豊かと思われてきたが、現在は大きくなり過ぎ、蒸散量が増えている状態である。適切な森林伐採を進めることで集中豪雨を減らし、森と海の豊かさにつながる。



岡田誠さん (三重県水産研究所)
・伊勢湾の貧酸素水塊の問題について・

貧酸素水塊の原因は成層の強化や水の動きが弱まることで海底に酸素が供給されないことが原因だと判明してきた。今後着目すべきは漁業対象種に限らず、出現種や生物多様性の変化だと考える。



米田紗歩さん、筒井千遥さん (22世紀奈佐の浜プロジェクト)
・22世紀奈佐の浜プロジェクトについて・

鳥羽市答志島での海岸漂着ごみが問題となっている中、ごみを出さない社会を構築し、豊かな海を取り戻すことを目的に2012年に設立された。流域内外の活動を通じて山から海まで新たな担い手たちとの繋がりを生み出すことを目指す。



中村欣一郎さん (鳥羽市長)
・鳥羽市で取り組む海ゴミ問題について・

鳥羽市では様々な海ごみ問題に取り組んでいる。22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽のSDGsまなブック、海のシリコンバレー構想、海のレッドデータブック等の海ごみ・海岸清掃からも鳥羽の魅力を伝えている。



奈佐の浜海岸



奈佐の浜海岸
近くの湿地帯



海女小屋

○答志島エクスカーションの実施

翌日は奈佐の浜海岸のごみの状況や、奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷についての説明を聞き、その後に海女小屋で新鮮な魚などを食べながら海女さんの貴重なお話を聞いた。

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

土砂還元事業およびダム堆砂分級工法について (テーマ④土砂の問題)

○徳島県那賀川・長安口ダムにおける土砂還元事業の事例紹介

徳島県那賀川・長安口ダムで実施されている土砂還元事業について、青木座長より話題提供があった。那賀川・長安口ダムの事例をもとに、矢作川の土砂問題について意見交換を行った。

○矢作ダムでの土砂分級実験の現場見学・意見交換

令和5年11月15日に開催された、矢作ダムのダム堆砂分級工法の現地実験見学会に参加した。令和5年12月12日の第53回海部会WGにて、見学会に参加していない懇談会員に現地実験見学会の状況を共有し、意見交換を行った。



ダム堆砂分級工法のパンフレット (表紙)

また、令和6年9月11日の第55回海部会WGにて、一般社団法人ダム水源地土砂対策技術研究会より、分級品質や作業効率を高める分級システムの構成や分級の流れについて動画を用いて解説して頂いた。土砂細粒分に加えて、栄養塩・有機物も効率的に分離できることを情報共有して頂き、意見交換を行った。



現地実験見学会の様子



第55回海部会WG

4. 各部会の第14期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

【今期の活動】

第14期の海部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	場所・内容
第14期	第52回WG	令和5年6月5日（月）	場所：豊橋市役所 東館 8 階(東83会議室) 内容：豊川および矢作川の自然再生事業について 土砂に関する技術紹介について 市民部会発の勉強会（バスツアー）について
	第53回WG	令和5年12月12日（火）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：矢作ダム堆砂土砂の分級工法について 流域圏担い手づくり事例集について
	第15回海部会 まとめの会	令和6年1月17日（水）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：今年度の振り返りと次年度の目標 流域圏担い手づくり事例集について
	第54回WG 事例集交流会	令和6年7月6日（土） ～7日（日）	場所：鳥羽市立海の博物館、答志島 内容：流域圏担い手づくり事例集交流会2024 答志島エクスカーショ
	第55回WG	令和6年9月11日（水）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：伊勢・三河湾の貧栄養化について ダム砂の分級技術の開発と試験水の栄養 塩濃度の分析
	第16回海部会 まとめの会	令和6年10月24日（木）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 多目的ホール 内容：今期の振り返りと来期の目標

5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -1 市民部会

【第15期の活動目標】

「流域連携」をテーマに以下の3つの活動目標を設定する。

<テーマ>	<活動目標>
食と農業	○ 食と農業に関する情報共有や活動を目的としたチームを作成し、その内容をWGで情報共有・意見交換する。 ○ 公開講座として流域市民の方への発信も検討する。
地域部会と連携	○ 地域部会と連携して流域の課題を流域市民の方に知っていただく機会を設ける。 ○ 矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業」、「海の現状・課題」をテーマとしたイベントを開催する。
新たなつながり	○ 矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。 ○ 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等） ○ 流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことを知っていただく場を設けて大学や市民の方も巻き込んでいく。

5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

資料3「矢作川の恵みで生きる」を参照

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

①流域圏担い手
づくり事例集

②山村
ミーティング

③森づくり
ガイドライン

④木づかい
ガイドライン

<テーマ>

<活動目標>

①流域圏担い手
づくり事例集

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集VI」を刊行する。
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。
- 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- 事例集交流会を開催する。

②山村ミーティング

- 山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、林業関係者との連携を強化する（担い手の創出）。
- 矢作川感謝祭始め多様な活動と連携して、流域の林業関係者の交流の場づくりにつなげていく。

5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

＜テーマ＞

＜活動目標＞

③森づくり ガイドライン

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。

④木づかい ガイドライン

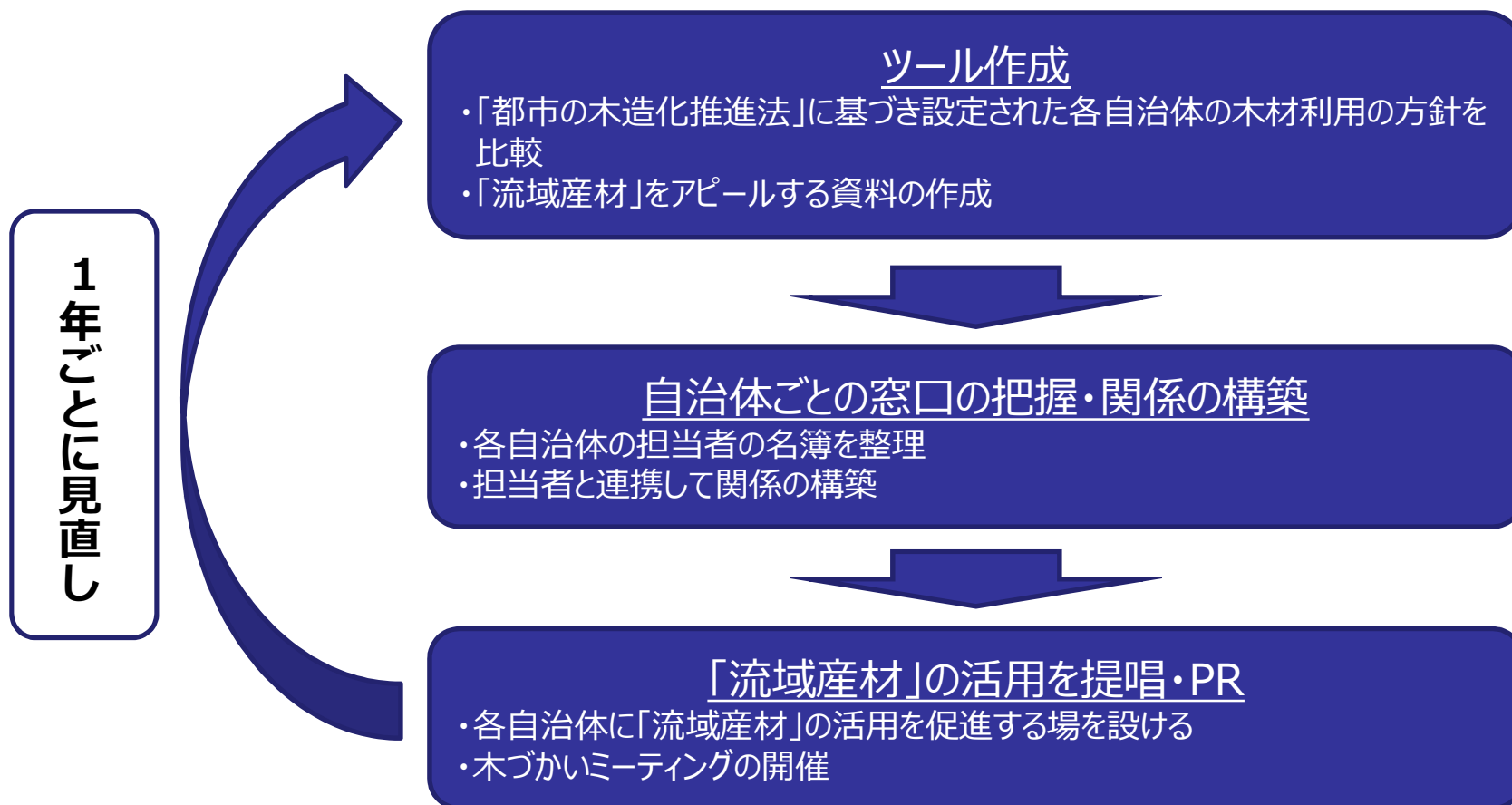
- 新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。
- 特に、どここの木材の利用を推進しているかに着目する。（市産材、県産材、国産材等）
- 「流域産材」を各自治体に広めていくためにアピールする資料を作成する。
- 各自治体の木材利用の担当者を整理し、関係を構築する。
- 各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。
- 木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。

5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

○木づかいガイドラインの今後の方針について

矢作川流域は3県をまたぐ流域であるため県産材の枠組みを超えた「流域産材」の利用を呼び掛けていきたい。第15期（来期）は「流域産材」の活用事例や活用方法をまとめた資料を作成し、各自治体に「流域産材」の活用を促進することを目標とする。



5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -3 川部会

【第15期の活動目標】

山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

<テーマ>

<活動目標>

河道に関する課題
(本川・支川)

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

流域圏に
関する課題

- 川まちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有していただく。
- 流域圏の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。
- 矢作川流域圏の特色（現状の課題や資源・資産）を整理する。

交流・共有に
関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、他部会・流域内外の外部団体との連携を深める。
- ダム・水力発電等のエクスカージョンから流域圏の課題を知っていただく。
- 整理した矢作川流域圏の特色を市民に知っていただく機会を設ける。

5. 第15期の全体会議の活動目標 (1) -4 海部会

【第15期の活動目標】

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

<テーマ>

豊かな海の再生に
向けた取り組み

海と人との絆再生

ごみの問題

土砂の問題

<目標>

- 海の栄養塩不足に関する対策に関する（干潟・浅場造成や浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 伊勢湾・三河湾の環境改善に取り組む種々の団体との交流・情報交換を積極的に行う。
- 一般市民に海の現状や課題を正しく伝えるために、市民部会とも連携して市民が参加しやすいイベントを開催する。
- 海と陸域との関係性の理解を深めるため、他部会との連携を一層進めるとともに、海部会への参加者を増やす。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
- 三河湾だけでなく、より広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していく。
- 岐阜・愛知・三重の海洋ごみに対する検討状況について情報共有するとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。
- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の状況を把握するとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。
- 出水に伴う土砂流出についても情報共有し、総合的な土砂問題に関する公開講座について検討を始める。

6. その他

多摩川流域懇談会・矢作川流域圏懇談会連携企画！
(第61回多摩川流域セミナー)

主催：多摩川流域懇談会・矢作川流域圏懇談会

2024.11.30. Sat

矢作川がわかれば 多摩川が見えてくる 多摩川がわかれば 矢作川が見えてくる

東京を流れる多摩川と、愛知を流れる矢作川。長さや流域の広さはよく似ている二つの川ですが、違うところもたくさんあります。二つの川の違うところやいいところを見つけて、川のステキな未来について考えてみませんか？

日時：2024.11.30 (土曜日)
午前の部 10:00～12:00 (定員30名)
午後の部 13:00～17:00 (会場35名・WEB150名)

場所：大師河原干潟館 (川崎市、多摩川河口部)

プログラム

午前の部：多摩川河口部のアシ原・干潟・高規格堤防の散策

午後の部：矢作川・多摩川流域間交流セミナー

★矢作川流域圏懇談会の講演・話題提供 ★多摩川流域懇談会の講演・話題提供

☆流域の視点からみた治水と総合水管理 ☆多摩川の姿と課題
蔵治光一郎 (東京大学大学院教授・山部会座長) 一過去30年のフィールド調査からの学び

☆矢作川流域圏懇談会14年のあゆみ 小堀 洋美 (東京都市大学客員教授・名誉教授)

☆矢作川流域圏懇談会発足の経緯 佐山 公一 (みずとみどり研究会・事務局長)

☆矢作川流域圏懇談会発足の経緯と取組 大野智弘 (京浜河川事務所事業対策官)

★話題提供：矢作川と多摩川の空中写真比較
松沢 孝智 (日本トンボ学会・総務幹事)

CPDプログラム
認定予定！
※午後の部のみ対象

多摩川流域懇談会フェイスブック
https://www.facebook.com/tamaryukon

多摩川流域セミナー
ホームページ
https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00123.html

矢作川流域圏懇談会 第5回公開講座

流域の視点から見た 治水・環境と総合水管理

～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～

2024年12月17日(火)
14:00～17:15

「G7 2030年自然協約」において「2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させる」という世界的な使命(ネイチャーポジティブ)が表明されました。

これからの日本は都心部も含め、様々な地域で人口減少が加速していきます。

「人口減少時代」を強く認識した時、従来の価値観・技術論とは異なる新しいポリシーを構築する必要があります。市民と自然が共生する社会を構築し、新たに提言された「流域治水から流域総合水管理への転換」について、私たちの流域ではどうするのかをみんなで考えてみませんか？

会場 名古屋大学 減 災館 減災ホール
Zoomによるオンライン配信あり

定員 会場 80名 オンライン 150名

参加 無料

申込方法 QRコードまたはURLから申し込んでいただくか
https://forms.gle/bWpsRQRgUGwVgYuv8
①～⑥を記載して下記メールアドレスに連絡ください。
複数人で申込も可能です

①氏名 ②所属 ③役職 ④メールアドレス
⑤参加形態(現地 or オンライン) ⑥懇親会の参加可否
Mail: r6_yahagi_jimukyokuhosa@chuoh-c.co.jp

申込期限 12月13日(金)

主催：矢作川流域圏懇談会(事務局：豊橋河川事務所)
お問合せ先：中央コンサルタンツ株式会社 TEL: 052-971-2541 担当：大嶋

参加申込 QRコード

8. 閉会

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会は、設立15年目となり、流域内外にその存在意義を伝えています。今期は、鳥羽市で開催された事例集交流会や「矢作川の全て」バスツアーを開催し、山・川・海が抱える課題について部会間での共通認識を図ることができました。矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭を通しておにぎりの販売や海苔の食べ比べを実施し、流域市民の方へ流域の課題を共有することができました。次世代を担う大学生を巻き込みつつ、人と人とが繋がることで、小さな輪が大きな輪になり、新たな交流が生まれています。来期はより一層、流域市民を含む外部への発信を強化していきます。

引き続き、この流域圏懇談会で情報を共有し、また、多くの人々への情報発信ができるよう、ご支援をお願い致します。



国土交通省 豊橋河川事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism